

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	ドレミファソライズ FC笛吹				公表日	2024年12月1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		法令に基づいたスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		法令に従って職員の配置を行っている。個別対応が可能な際も適切に配置できている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>			バリアフリーについては改善が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		パーティションを利用した形だが、個別に使用することができる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		毎日のミーティングで振り返りを行い、目標に対しての進捗や課題を確認している。	目標設定を職員が確認できるように声掛けをしていくように努める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		送迎時やモニタリング会議の際に要望をヒアリングし改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		毎日のミーティング時に業務の改善に関する話し合いをしている。	長期休み時は時間が取れず、オンライン上でのやり取りとなっている。対面でのコミュニケーションを増やすよう努める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	現在は行っていない。	外部評価を行っている期間の選定をしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		ミーティング内で定期的実施している。	地域の療育施設コミュニティーで実施している研修に積極的に参加していく。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		定期的に関係者会議を行い、その中で進捗確認、アップデートを行っている。	適切なタイミングでの見直しを行っていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		毎日のミーティング内で職員全員で立案を行っている。	利用児全員が楽しめて、しっかりこなせるメニューを立案できるようにしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		サッカー療育のメニューは外部の情報も活用している。社会活動においても、バリエーション豊富に工夫している。	季節のイベントや社会科見学なども取り入れていく。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		集団活動が基本となるが、必要に応じて個別活動、個別対応を行っている。	利用児の特性や状態に応じて対応できる体制を維持していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		毎日ミーティングを行いその中で必ず確認を行っている。	職員間の連携を強化していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input type="radio"/>		毎日ミーティングを行いその中で必ず確認を行っている。	職員間の連携を強化していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input type="radio"/>		利用児個々の活動を記録している。	利用児の変化を見逃さないように振り返りをおこなう。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input type="radio"/>		関係機関とも協力して行っている。	成長・発達を踏まえ、適宜計画の見直しする。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	<input type="radio"/>			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	<input type="radio"/>			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input type="radio"/>		担当者会議には児童発達支援管理責任者が出席しています。必要に応じて支援員も同行し、現状報告が詳細に行えるよう心掛けています。	担当者会議録及び現状報告を行った記録の整備を行っていきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input type="radio"/>			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	<input type="radio"/>		送迎時や関係者会議などで行っている。	電話やメールも活用してできる限りタイムリーに行なっていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	<input type="radio"/>		できる限り就学前の引継ぎを行うようにしている。	相談支援事業所や児童発達支援事業所との情報共有を強化していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	<input type="radio"/>		現状はそういった事例はなし。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	<input type="radio"/>		公開保育に参加したり、助言を受けて療育にいかしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	<input type="radio"/>		まだ機会はないので、今後作っていく。	インクルーシブの一環として積極的に地域との活動機会を作っていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	<input type="radio"/>		福祉連絡会には必ず参加し、地域の困り事を他の事業所の方と協議している。	今後も継続して参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input type="radio"/>		送迎時や必要に応じて電話、メール等でのコミュニケーションを行っている。	よりタイムリーなコミュニケーションを心掛けていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<input type="radio"/>			提案できるような情報を集めるようにしていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<input type="radio"/>		契約時に対面で行っている。	不明点や質問については丁寧に説明していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	<input type="radio"/>		関係者会議などで定期的に確認している。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じて事業所に来所いただき、対面で行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしている	○		親子サッカー大会や夏祭りでは保護者にも参加していただき交流を図っている。	もっと多くの機会を作れるように努めます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		迅速に対応するように努めている。	保護者が話やすい体制を心掛けていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎日ブログ、インスタグラムを更新。月1回ソラリス新聞を発行し配布している。	今後も継続して行っていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		年1回個人情報の取り扱いについてミーティングで確認を行っている。	個人情報の取り扱いに関しては今後も十分に注意し、徹底していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		特性に応じて対応を全職員で話し合い実行している。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		いつでも見られるように事業所にマニュアルを準備しており、年に1回訓練を実施している。	事業所の環境整備を更に進めると共に、災害用伝言サービスの体験利用を設けるなど今後も災害に対する意識を高めていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年に1回、内容（火災・地震・不審者）を変えて避難訓練を実施しています。	避難訓練の反省点や修正点を職員皆で共有し、災害時に落ち着いて行動できるようにしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		毎日のミーティングで共有し、再発防止に努めている。	ゆとりを持った行動を心掛け、防止に努める。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止マニュアルを策定し設置している。地域の研修会にも参加をしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		子ども達一人一人の心身共に育やかな発達を願い、傷つけることのない様十分に配慮した上でやむを得ずそのような状態になった場合を想定し、個別支援計画説明時に了解を得るようにしている。	安全を第一に考え、やむを得ずとはどういう場合なのかを、保護者の方と細かく話をしながら計画書に記載していく。	